

令和2年度 卓越した技能者 (現代の名工)を決定しました

〜婦人・子供服注文仕立職の金武節子氏を
はじめ150名を11月9日に表彰〜

卓越した技能者の表彰制度とは

昭和42年に創設した「卓越した技能者の表彰制度」は、卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者を表彰するも



被表彰者に表彰状を贈る三原厚生労働副大臣

のです。この制度は、技能の世界で活躍する職人や技能の世界を志す若者に目標を示し、技能者の地位と技能水準の向上を図ること、また、技能者の模範として、将来を担う優秀な技能者の確保・育成を進め、優れた技能を次世代に継承していくことを目的としています。創設以来、令和元年度までに、6,646名の方が表彰されています。

三原厚生労働副大臣より
表彰状授与

厚生労働省では、令和2年度の卓越した技能者(通称「現代の名工」)について、婦人・子供服注文仕立職として顧客の個性や着用目的、季節などに合わせて、デザ



祝辞を贈る三原厚生労働副大臣

インから裁断、縫製まで一貫して制作する卓越した技能を持つ金武節子氏をはじめとして、表彰対象者150名を決定し、11月9日(月)に東京都新宿区のリーガロイヤルホテル東京にて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各部門を代表する20名の技能者を招待して表彰式を行いました。

この式典に出席した三原厚生労働副大臣は、「現代の名工となられた後のご活躍は、将来を担う若者に、ものづくりや技能の道への第一歩を踏み出させ、若い技能者自らが技能水準の向上に取り組み契機となります。今後とも、その卓越した技能と指導力をもって、広く技能者の模範として、後進の



被表彰者代表より謝辞を受ける小林人材開発統括官

育成に一層、積極的に当たっていただきますことを期待しています。」と挨拶しました。

◆表彰事例

金武節子氏 (76歳)
婦人・子供服注文仕立職
(アトリエ師)

●注文婦人服製造における第一人者/デザイン、裁断、縫製の技能に卓越 (佐賀県推薦)

注文婦人服の制作において、顧

◆令和2年度 代表的な技能者について

第1部門	平川 康弘 (打刃物鍛造仕上工)
第2部門	増子 衛 (フライス盤工)
第3部門	相場 満彦 (金属検寸工)
第4部門	原 稔 (金属工作機械組立工・調整工)
第5部門	杉田 邦夫 (電気配線工事作業者)
第6部門	加藤 達朗 (自動車部品組立工)
第7部門	高橋 千鶴子 (染織職)
第8部門	金武 節子 (婦人・子供服注文仕立職)
第9部門	佐野 義光 (宮大工)
第10部門	井上 良夫 (左官)
第11部門	飛田 幸男 (造園工等)
第12部門	向山 明生 (ステンドグラス工)
第13部門	前田 秋夫 (木製建具製造工)
第14部門	畑中 和紀 (和生菓子製造工)
第15部門	金田 恵美子 (衣装着付師)
第16部門	黒田 廣昭 (日本料理調理人)
第17部門	森下 明久 (家具類内張工)
第18部門	柴 正義 (広告美術工)
第19部門	白井 二美男 (義肢・装具製作工)
第20部門	下村 富喜雄 (玉掛工)

※ 職業部門、氏名(敬称略)及び職種を記載。

詳しくは、厚生労働省HPの以下をご覧ください。

◆令和2年度の被表彰者及びその技能功績について

ホーム>報道・広報>報道発表資料>2020年11月>令和2年度卓越した技能者(現代の名工)を決定しました

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14519.html

◆卓越した技能者(現代の名工)の表彰制度について

ホーム>政策について>分野別の政策一覧>雇用・労働>人材開発>「卓越した技能者(現代の名工)」表彰制度のコーナー

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/meikou/index.html



【作品写真】 ツーピース [家紋]
2009年全日本洋裁技能コンクール内閣総理大臣賞受賞作品



【作業風景写真】
シーチングによるジャケットの立体裁断

客の個性や着用目的、季節等に合わせ、布地を身体に当てて裁断する立体裁断の手法を用い、顧客の体型とデザインの面、線を見極めながら、デザインから裁断、縫

製まで一貫して制作する技能に卓越している。
また、日本の風土で培われてき

た伝統の織を大切にし、九州の博多織や久留米絣、佐賀錦の素材を使った作品を海外で発表するなど服飾文化の向上に貢献し続けている。

● 布に教えられ、糸に導かれて

父の勧めで、熊本市内の職業訓練所で洋裁の技術を取得。23歳からの6年間、洋裁店のパタンナー及びデザイナーを経て、35歳の時独立し、オートクチュール「アトリエ節」を開業。アパレル業界の大量生産の中にも、注文服

に拘り続けてきた。着る人の体に合った、その人にとって快適に思える洋服をデザイン・制作してきた。

変えていいものと変えてはならないものを選別しながら、立体裁断による縫製を行っている。また、日本伝統の織物を大切に、着物・帯・絣等を素材として、和の素晴らしさを発表し続けた。終わりのない技術の世界、高等学校の講師を通して、若い人にもものづくりの楽しさや大切さを伝え、技術を継承し続けている。